

4月定例教育委員会会議録

1 開催日時

平成25年4月23日（火） 午前10時～午前11時50分

2 場所

鳥取県庁第2庁舎5階 教育委員会会議室

3 出席委員

中島諒人、坂本トヨ子、笠見幸子、若原道昭、松本美恵子、横濱純一（教育長）

4 欠席委員

なし

5 出席事務局職員

教育次長 生田文子、次長 山本仁志、参事監兼高等学校課長 山根孝正、
教育総務課長 森田靖彦、教育環境課長 前田伸二、
小中学校課長 石田明広、特別支援教育課長 足立正久、
いじめ・不登校総合対策センター長 松岡一、
教育センター副所長 福本慎一、家庭・地域教育課長 宮城絵理、
図書館長 高橋紀子、人権教育課長 岸田康正、文化財課長 上山憲二、
博物館長 山内有明、スポーツ健康教育課長 吹野英明、
教育総務課参事 木本美喜、教育総務課参事 谷和敏

6 会議

10時、中島委員長が開会を宣言した。

(1) 日程説明

森田教育総務課長が本日の日程を報告。

(2) 一般報告

横濱教育長より、教育振興協約調印式、米子市との協定調印式、岡山県教育委員会の来訪、海外派遣高校生による訪問、退職者への辞令交付式、法勝寺中学校の内田涼葉さん来訪、人事異動に伴う辞令交付式、第1回指導事務連絡協議会、県立学校長会、各教育局長との意見交換、鳥取県新型

インフルエンザ対策会議、いじめ・不登校総合対策センターの開所式、琴の浦高等特別支援学校の開校式等について報告があった。

(3) 議事

・議案第1号 平成25年度鳥取県教科用図書選定審議会への諮問について

足立特別支援教育課長より、平成25年度鳥取県教科用図書選定審議会への諮問について説明があった。「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、1点目として、平成26年度に使用する特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択基準、2点目として、教科用図書の選定に必要な資料、3点目として、県立特別支援学校において使用する教科用図書の採択についての3点について諮問しようとするものである。審議の流れについては、4月26日に第1回教科用図書選定審議会を開催した上で教科用図書の研究を行い、6月24日に第2回審議会を開催し、意見を取りまとめた上、6月下旬に答申の予定としている。また、教科用図書選定審議会委員については、3月に教育委員会での審議を受け、3月27日に20名の委員に委嘱を行っている旨の説明があった。

次いで審議が行われ、議案第1号については、原案どおり可決された。

・議案第2号 鳥取県教育審議会への諮問について

山根参事監兼高等学校課長より、鳥取県教育審議会への諮問について説明があった。3月の委員協議会で検討いただいた諮問案について、そこからさらに検討し、具体的な記述内容について、グローバル化と情報化の一層の進展や県人口や生徒数の減少に対応するという表現に変更したこと。また、諮問理由については、諮問の経緯の記述部分を、県人口の大幅な減少にも対応したと記述する旨の説明があった。

次いで審議が行われ、横濱教育長、中島委員長、笠見委員、若原委員より、県境をまたいで幅広いニーズを捉えながら、より柔軟な発想が必要だということ、鳥取県らしさが伝わる言葉の挿入、今後の審議会の開催時期や答申のまとめ方などについて質問や意見があり、山根参事監兼高等学校課長が説明し、議案第2号については、各委員からの記述に関する修正意見を踏まえ、修正案をもって可決された。

・議案第3号 鳥取県文化財保護審議会への諮問について

上山文化財課長より、鳥取県文化財保護審議会への諮問について説明があった。鳥取市旧用瀬町にある天然記念物「赤波川おう穴群」について、この流域には花崗岩が広く分布しており、小石などに削られて「おう穴」と呼ばれるくぼみや、早い流れにより形成されたラピエ状地形などの特有な河床地形が形成されている。この「赤波川のおう穴群」は、おう穴種類の多様さ、分布域の広さ、河床地形の特異さに特徴があり、風化や侵食に関する現象が顕著な点において、県内では見られない貴重な文化財と考えられることから、鳥取県文化財保護審議会に諮問するものである旨の説明があった。

次いで審議が行われ、議案第3号については原案どおり可決された。

[非公開]

人事に関する案件のため、議案第4号及び議案第5号については、非公開と決定された。

・議案第4号 公文書非開示決定処分に係る審査請求に対する裁決について

足立特別支援教育課長より、公文書非開示決定処分に係る審査請求に対する裁決について説明があった。

次いで審議が行われ、議案第4号は原案どおり可決された。

[非公開]

・議案第5号 鳥取県スポーツ審議会臨時委員の委嘱について

吹野スポーツ健康教育課長より、鳥取県スポーツ審議会臨時委員の委嘱について説明があった。

次いで審議が行われ、議案第5号は原案どおり可決された。

・報告事項ア 鳥取県教育委員会施設保全計画の策定について

前田教育環境課長より、鳥取県教育委員会施設保全計画の策定について説明があった。知事部局においては平成23年度から県の県有施設の保全計画を定め、長期的な取り組みが進められているところであり、これを受けて、教育委員会でも同様の取り組みが必要である。このため、教育委員

会所管施設について、施設の現状、課題、今後の取り組みの方向性等を定めた施設保全計画を策定したところである。教育委員会が所管する施設は53施設、総延べ床面積は約50万平方メートルとなるが、これらの施設は1960年代から80年代前半にかけて整備されてきたもので、今後大規模な改修の時期が来ることとなる。加えて社会環境の変化、省エネ対策への配慮、バリアフリー化なども含めて、多様な課題のなかでの施設整備が求められており、施設の長寿命化を行うことによって、将来的な維持経費の縮減に対する効果は非常に高いと考えられ、財政負担の平準化につながると思われる旨の説明があった。

次いで質疑応答が行われ、中島委員長、若原委員、松本委員から、保全計画の基本的な考え方、対象となる施設の範囲、施設の耐用年数等について質問があり、前田教育環境課長から説明があった。

・ 報告事項イ 平成25年度鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査における得点状況について

山根参事監兼高等学校課長より、平成25年度鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査における得点状況について説明があった。平成25年度は国語がやや難しく、平均点が23.5点、他の4教科は25点から30点の間に入っており、総得点は130.5点であった。受験者数は3,667名で、中学校卒業者の67.0%が受験したことになる。得点の分布をグラフにしたところ、国語は平均点より下のところに1つ山ができており、社会については台形状の分布、数学は正規分布に近い形で、得点の下位の生徒が減少しているようである。理科では、従来よりかなり難しい問題を出したので、中位より下のところに集まっているように見える。英語については、はっきりと上位と下位に分かれるふたこぶラクダ傾向となっている。また、東部地区では一般入試、学力選抜を受ける割合が高く、西部地区ではやや低いという実態があり、これも地区別の得点分布に影響しているのではないかと説明があった。

次いで質疑応答が行われ、中島委員長、若原委員、笠見委員、横濱教育長から、地区別の一般入試の募集比率の差が得点分布に影響を与えている点や、この分析の結果の生かし方、また、英語のふたこぶ化状況を変えるための県教委と市町村教委との連携方策等について質問、意見があり、山根参事監兼高等学校課長から現状、今後の対応等について説明があった。

・報告事項エ 微小粒子状物質（PM_{2.5}）への対応について

吹野スポーツ健康教育課長より、微小粒子状物質（PM_{2.5}）への対応について説明があった。県教育委員会は、生活環境部の水・大気環境課が作成した「鳥取県微小粒子状物質に係る注意喚起等実施要項」に基づいて、県立学校における暫定的な判断基準を示し、合わせて市町村教育委員会に対しても参考送付を行った。内容としては、現在、県においては、PM_{2.5}の日平均あるいは1時間あたりの数値の測定を鳥取と米子で行っており、数値が国の環境基準を超える場合には情報提供あるいは警戒情報を流すこととしているが、県立学校における対応として、国の環境基準35マイクロ/立方メートルを超える場合には、屋外での運動や教育活動を行う際にアレルギーや呼吸器などに疾患を持った児童生徒についての健康観察を行ってほしいということ。また、警戒情報である時間あたり85マイクロ/立方メートルを超えた場合には屋外での運動は避け、体育の学習あるいは部活動は体育館等の屋内で行ってほしい、というようなことを定めたものであり、県教委独自の目安も定められているとの説明があった。

次いで質疑応答が行われ、横濱教育長、中島委員長から、数値が基準値を超えた時の情報伝達方法や市町村での確認方法について質問があり、吹野スポーツ健康教育課長から説明があった。

・報告事項オ～チについては、資料配布のみとし説明は省略することとなった。

中島委員長が閉会を宣言し、4月定例教育委員会を閉会した。